

【ねがいはましては】

平成27年2月25日

KYOWA SCHOOL

第292号

「どっちが知りたい」

ある日の授業なのですが、数学の問題を説明しているときに、答えが知りたいのか、その過程が知りたいのか。その心理をふと思った時がありました。その子が取り組むものは学校からの宿題、生徒たちすべてに配られる問題ノートです。あるページからあるページまで、しっかりと答えを書き込んで提出するのだそうです。

簡単に結論を出してしまえば、『答え優先』。書き込んであればよいわけですから、出題者は、その欄を見、やってあるなど目を移していきます。当然、子どもたちは目の前のものが宿題である以上「やってあればよい」わけです。

あまり良くない意味で、このような呼吸を「あうん」の息、とでも言うのでしょうか。皮肉たっぷりで申し訳ありません。そこで、真の学びとは何なのだろうと、数学の問題を見つめながら思いました。

「解く過程が大切だ」と思う学びが真の学びだ。このことは誰もがまぎれもなく「そうだ」と、賛成していただけるはずです。

「へー、こうなって、こうなって、こうなるから答えにたどり着くんだ。なるほどねー。」このように過程をじっくりとかみしめるときこそが、勉強って楽しいものなのだという実感を受け取れるとき……。しかし、対象物が宿題となると、「こんなふうには味わっていたのでは、宿題が終わらなくなってしまう。」という感情が芽生えてきて、味わう間もなく、早く終わらせたいという気持ちが勝利していきます。つまり勉強って味のあるものなのだなー、という大切な感情を受け取るチャンスをことごとく奪ってしまうこととなります。

そこで私の中に湧き上がってくるひとつの感情が、宿題って何なのだ。

やはり漢字の宿題を行っている小学生がいます。ささっと早いえんぴつ使いで見事に書き込んでいきます。その光景を見ながら思います。「書いているだけなのかなー。」その子からの一言、「書いて出さないと、次から書く量が増えてしまうんです。」知らず知らずのうちにその子の中に宿ってしまうもの、「書けばいい……。」

時々、子どもたちに言うことがあります。「字って、目の前の人に伝えるためにあるんじゃないのかなー。なんか、この字見ていると、自分だけが読めればいいんだ、みたいな字に見えるよ。」

確かに子どもたちの字に対する視線は、「テストで〇がもらえればいい。」という字になっている子は多いと思うのです。国語でも、算数でも、社会でも、テストが帰ってきたとき、「あれっ、この字読んでくれていた。やったね！」なんて喜んでいる子もいると思うのです。

学ぶことの基本、それがいつの間にかテスト優先のために、ずれてきているような気が致します。といっても、私たちも学校生活を送っていた時代はテストがあったわけで、「いまさら……。」と言われてしまえばそれで終わりの感があります。

しかし、私にはどうしても納得がいきません。ひとりひとりの目を見ながら一対一で伝える方式をとっていると、目の前の子が、書いてあればいい主義で日々の勉強を味わっているのだとすると、なぜか虚しさばかりになってしまうのです。

もし、テストがなかったら、きっとテストで歩んできた子たちは絶対に勉強などしなくなります。だってテストがないのですから……。もし、はじめからテストのない勉強でスタートしていたら、きっと答え優先ではなく、「なぜ、そのところがそのような式になるんですか。」「なぜ、私のやり方は正しい答えにならないんですか。」などと、納得のいくまで質問攻めになるかもしれません。実はこの光景、真の学びの光景ではないのでしょうか。

学校生活スタートから、テストなしでスタート。でも、保護者の方々に学校での様子をつぶさに伝える必要はあります。保護者の方々は、なにが知りたいか……。しっかり前向きに取り組んでいるか……。学校生活を謳歌しているか。そこに最も大きな授業者の手腕がかかってくるわけですが……。

そのところの授業者の大きな労力軽減を図るため、テスト導入、数字で評価。

実はこの数字による評価は、授業者側の一方的な「楽」を追求したものではないのでしょうか。大学のセンター入試も、機械化が進み、マークシート方式にすることでコストダウンできるための方策。結果、暗記能力を試すものが多くなってしまいました。問題解決能力を問うような記述式はなかなか採用されません。授業をする側の一方的な「楽」主義が、このような子どもたちの心の動きを作ってしまったのかもしれませんが、これも皮肉たっぷりでごめんなさい。今の学校の先生方は、忙しくて大変です。信じられないくらいの労働を日夜送られています。よほど神経の図太い方が、くよくよしないことを上手になさっている方が、かろうじて健康を保っているのかもしれませんが、そのくらい学校の先生方はご苦労なさっています。

少しでも、「過程が先！」という子どもたちの反応を作り出すことができれば……。

私の理想、少人数でテストは入学時点から一切なし、評価は文章形式で報告。子どもの心の動きなどをつぶさに観察しながら、前向きになれるような授業形態を模索する。兎にも角にも、助け合う勉強が一番。目の前の人からニコッとされて「ありがとう」って言われたら……。 「よーし、もっと勉強して、ニコッとさせたいな。」ありがとね。